

# 三ッ谷 平治（みつや・へいじ）

## 1、プロフィール

昭和 10 年、八木沼丈夫が主宰する「満州短歌」に入会。県文化振興会議常任委員、東奥日報社主催県短歌大会選者、群緑短歌会選者、県歌人懇話会会長として本県文化向上に尽力。

<生没>

1917(大正6)年5月10日 ~ 2001(平成13)年12月12日

<代表作>

歌集『鵲抄』『雪解けの街』『岬に立ちて』『北京の壺』『漂泛ありて』『昭和残照』

<青森との関わり>

西津軽郡鰺ヶ沢町に生まれる。

## 2、作家解説

昭和 10 年「満州短歌」に入会、八木沼丈夫に師事する。昭和 34 年、潮汐短歌会に入会して鹿児島寿蔵に師事、青森県支部長に就任して以来、鹿児島亡きあと「求青」「群緑」の運営委員及び選者を担当。ラジオ青森短歌教室選者。東奥日報社主催青森県短歌大会選者。県内 13 地区における県下短歌大会の選者。毎年発行する『青森県歌集』の編集と校正を担当。青森県文化振興会議の創設に参画、理事、監査委員、常任委員。日本歌人クラブ青森県委員。日本歌人クラブ主催東北短歌大会選者。現代歌人協会会員。宮中歌会始め、陪聴者。産経新聞東北版歌壇選者。青森県歌人懇話会会長。平泉町毛越寺における「曲水の宴」に歌人として参宴など、本県並びに中央歌壇の隆盛、発展に貢献した。

青森県歌人賞(昭和 40 年)、潮汐賞(昭和 43 年)、潮汐大賞(昭和 48 年)、現代歌人協会賞(昭和 53 年)、青森県芸術文化報奨(昭和 56 年、潮汐会青森支部)、青森市民表彰(昭和 63 年)、青森市文化功労賞(昭和 63 年)、青森県文化振興会議会長表彰(平成元年)、鰺ヶ沢町町制施行 100 周年功労賞(平成2年)、青森

県文化賞(平成4年)、勲五等瑞宝章(日本塗装工業会理事等の建設業功績)受章。

代表作

院子の楡にひとこゑ啼きしのみ鶺鴒は飛びて空に光れり  
まがなしく漂泛ありてゆく水にまだ青き葉の柳散り落つ  
群星を離れわたりて満月は中天に在り青く孤独に

### 3、資料紹介

○『漂泛ありて』

図書

1991(平成3)年5月10日

210mm×148mm

昭和55年から59年までの歌523首を収める。鹿児島寿蔵逝去の年を中心に、「潮汐」廃刊「求青」発刊、「求青」の「群緑」改題など編集人、選者である著者の「糸の切れた凧のようにたどきなく、北満で体験した白夜の日々のようであった」世界が詠われている。